

## [医療経済]

## 平成14年度社会保険診療報酬改定の周辺—雑感—

鈴木 満

平成14年度の診療報酬改定は、診療報酬▲1.3%、薬価▲1.3%、医療材料▲0.1%の改定がされた。透析医療の分野では、試算によると1透析当たり2,300円（従来の透析食630円を含まず）の引下げが推定される結果となった。詳細については、7施設に依頼して3月分の診療報酬に新改定点数を当てはめて算出し新旧の比較作業を行っている。例年行っている6月分のレセプト分析作業の結果、および今秋9月頃を予定しているが、会員各位の本件に対する対応・対策をアンケート調査して、その結果をお知らせしたいと考えている。手元に、(株)じほう社の平成14年5月31日付けの「メディファックス」があるが、愛知県医師会が行った2002年4月診療分に「新・旧点数置き換え作業」をすると、結果は「マイナス12.3%」であると参議院で質問された、と報道されている。日医は、引下げ検証で▲2.7%以上となれば再改定を要求すると主張しているが、透析の現場では検証されているも同然である。特筆せねばならないのは、透析時間枠の撤廃であり、日本国民の生命をないがしろにする事態が発生したことである。EBMを唱える厚労省に有るまじき行為であり、米国方式を選択せんと意向が明白であるに加え、米国に存在する年間1万例を凌ぐ腎移植を看過した上、透析医療の質を低下せんとする暴挙である。また、日医総研が報告した「公的年金積み立ての運用実態の研究」によると、年金積立金144兆円（1999年度）を分析すると、内87.8兆円以上が不良債権化していると指摘した、との報道もある。

日本の国庫財政が危惧され財政再建を目指した土光臨調に始まり、構造改革が論じられて久しい。5年前

の橋本政権においても改革が俎上に載ったが、不況を理由に国債が増発されて改革は先送りになった。公的年金のように医療費もタックス・イーターに好きに食いつぶされたのであろう。

インターネット上の財務省のページを開くと、平成13年12月末現在の日本国の借金、「国債及び借入金並びに政府保証債務現残高」が明示されている。その総額は800兆円を越えると堂々と掲げられ、地方債の200兆円を加えると1,000兆円を越す借金があることになる。「高校生のための証券投資」を開けると、国の一般会計は80兆円で、その内、税収は50兆円、「借金してお金を使えば景気が良くなるだろう」と、30兆円の国債発行で財源を補填しているために、国債の格付けがイタリア以下に引下げられ、東ヨーロッパやアフリカ諸国と同格になっていることが解説されている。ほかのページを開けると日本の財政状況は、太平洋戦争が行われた昭和18年と同じ状況とした主張もある。

今回の診療報酬改定は、かかる状況下で決められたため、そして過去10年間の医療費の伸びが引下げの物差しとされたために、透析医療費は大きな犠牲を払わされたのである。日本医師会は、「医療制度改革は財政的なつじつま合わせ」と、14年度改定を非難したが、国の「ない袖は振れない」が現実であった。今回の改定で医療供給側が満足する結果の条件は、国債増発のみが解決できることであった。しかし、平成13年秋の閣議決定で増税ナシ、国債増発ナシと決まっていたので所詮は無理だったのである。

改定の経過を辿ると、平成13年7月に総合規制改革会議による骨太な改革方針が発表されるなり、8月

10日には「平成14年度予算の概算要求」（シーリング）が提示され、社会保障関係費の要求限度額が7,000億円に決定された。これを受けて厚労省は9月25日に「医療制度改革試案」を発表し、小泉首相と対峙すべくゴングを鳴らしたつもりが、増税と国債増発の両者が否定されてあっさりKOされたこと、厚労省幹部も認めている。小泉首相のトップダウン方式に反発する日本医師会と族議員の動きに、以後、厚労省は洞が峠を決めた。社会保障の自然増分の1兆円を確保するどころか、7,000億円に圧縮された厚労省は、医療費国庫負担の自然増分5,500億円を確保するところを医療費のシーリングを2,700億円と決め、この差の2,800億円を医療費のマイナス改定で帳尻合わせをすることになったからである。

昨年12月18日の塩川財務大臣と坂口厚労大臣が、14年度の予算編成に先立つ大臣折衝で14年度の診療報酬改定幅を合意し、決定するまで熾烈な水面下の折衝が行われた。12月21日付けの読売新聞に「検証：診療報酬引下げ」という記事が掲載された。内容は、12月13日に日医は自見庄三郎自民党組織本部長等十数人の族議員を集めて、原則1割の高齢者の窓口負担に「上限復活」を求めて働きかけ、12月15日には、橋本龍太郎元首相を背にした丹羽雄哉党医療基本問題調査会長と坪井栄孝日医会長が極秘会談を持ち、山崎幹事長の了解を前提に、▲2.7%の提示を坪井会長が同意したとある。12月17日の深夜には、糸氏副会長等の日医幹部数人が「月額上限制度」を巡り丹羽党医療基本問題調査会長と激しい押し問答を繰り返す。首相官邸が乗り出すとの情報も伝わり、坪井会長が最終判断を下して平成14年度の医療制度改革が決着をみたとの由である。

族議員と官邸周辺との暗闘はまだ続いている。5月31日付けの「JAPAN MEDICINE」に、財務省/財政制度等審議会・財政制度分科会等合同委員会が議論して取り纏めた「2003年度予算編成上の各分野の論点等」の資料の内、社会保障と介護の部分が抜粋され掲載されている。これは、今国会に上程中の健保法改正法案の付則についての関連議論である。本議論を前提として、平成15年3月31日までを期限に、将来の抜本改革を決定する医療制度改革本部が3月8日に厚労省に設置されたが、与党の族議員は、厚労省の改革本部とは別の独自案を年内に取り纏めるといふ。

将来の抜本改革の概要は、本年度中に、①保険者の統合・再編を含む医療保険制度の在り方、②新しい高齢者医療制度の創設、③診療報酬体系の見直し、を行う。概ね2年を目途に手順を明らかにしつつ、①社会保険病院の在り方を見直し、②社会保険庁の業務運営の効率化・合理化、について所要の措置を講ずる。概ね3年を目途に手順を明らかにしつつ、①社会保険および労働保険の徴収事務の一元化、②一般医療、老人医療および介護保険の自己負担が高額となる場合にその軽減を図る仕組み、③診療報酬の審査等の事務処理の見直し、について所要の措置を講じ、概ね5年を目途に政管健保事業の在り方を見直しをして所要の措置を講じる。また、①医療事故の苦情処理体制の整備、②医療の情報収集・分析および提供体制の整備、③医療保険等の保険給付の内容の在り方、について検討を行い、所要の措置を講じるとある。

増税が検討されている模様である。消費税率が10%になる話題は5年前からあるが、実施もされていないから予定もない。5公5民が崩れると、江戸時代でも一揆の箴旗が立った歴史があるので、国民負担は50%を超さない状況で国が運営されている。政治家は選挙が怖いのである。社会保障が充実しているスウェーデン国民は70%超の税金を払い、EUには参加できないでいる。日本では増税が不可能であれば、近い将来、14年度改定と来春からの社保の3割負担で医療財源は5年しか保たないので、医療保険に混合診療や給付の制限・除外が導入されるだろう。今回は透析食が患者負担とされたが、透析の現場を、次に、なにが襲うかを考えなければならない。

将来の社会保障制度における医療の在り方は、官僚や政治家の意図するところではなく国民の望む方向で決定されなければならない。重い腰を上げて、やっと公務員給与の引下げが検討されているようである。景気が底を打って「来春には明るい兆しが見えてきました。株も上がります」と、財界人が政治家のパーティーで挨拶する時点で、である。民が効率化を徹底し、贅肉を落とし、その犠牲者が悲鳴を上げているときに、である。公務員給与が仮に引下げられても景気次第で何時でも引き上げられるタイミングを狙っての報道である。公務員給与の引下げに優先して、公務員の削減こそが最優先されるべきであるのに、である。衆参両議院の員数にしても同様である。

今回の医療費引下げは、官の無策を棚に上げれば、仕方ないかもしれない。が、改革の手順は逆である。前述したように、国民に痛みを強いるならば、まず、官自らが痛まずして国を為していると、言えないからである。

厚労省資料による医療供給体制の各国比較（1998）でドイツと日本を比較してみると、人口1,000人当たり病床数で日本は13.1と9.3のドイツより多いが、日本の病床数は、平成15年8月末までの急性期・慢性期病床の届出でどう変わるかである。ドイツでも、現在、一層の削減がされているという。病床100床当たりの医師数では、ドイツは日本の3倍の医師がいる。同様に看護師でも、ドイツは日本より2倍の看護師がいる。医療の質を推測すると、ドイツに旗が

上がるのではなかろうか。ドイツには失業保険を受けている医師が23,000人いる上に、毎年3,000人の医師が卒業してくるそうである。開業医になるのも登録した上で順番待ちで、後継者に配慮もされないそうである。数の上では、日本でも5年後に医師の失業時代が到来するという。

今回の改定で医療改革のすべてが終わったのか、残念ながら始まったのだ。坪井日医会長は5年前に、鋭角ではない鈍角な改革を要求していた。今改定が鋭角であるか鈍角であるかは議論があるにせよ、3割負担の限界が提示されたことは紛れもない事実である。世代間の負担は、医療でも年金でも公平ではない。透析の現場でも高齢化社会の軋みが聞こえる。なにができるかなにをするかを考えたい。